

令和元年度 第3回屋久島町廃棄物処理施設整備検討委員会 議事要旨

期日：令和元年7月25日(木) 午前9時30分～正午

場所：屋久島町役場議会棟第1委員会室及び屋久島クリーンサポートセンター

【要旨】

1 検討事項

①処理方式について

施設整備方針(案)の検討及び本町施設と他自治体施設の比較検討を行う。

施設整備方針(案)は、下記の事項を基本とし、今後必要に応じ加筆を行っていく。

「環境に配慮した施設」

- ・ダイオキシン類や温室効果ガスの発生を抑えた、環境に配慮した施設
- ・可能な限り自然環境・生活環境への負荷を低減する施設

「廃棄物の処理を安全に安定して行える施設」

- ・事故やトラブルが少なく、安全性の高い、町民から信頼される施設
- ・廃棄物処理が滞らないよう将来にわたって安定的な稼働が可能な仕組みの施設
- ・地震や停電時も安全に運転を停止し、災害に強い施設

「維持管理の経済性・容易性に優れた施設」

- ・維持管理費の低減、設備機器の取替、補修等が容易な維持管理に優れた施設
- ・全国的に普及確立した技術であり、且つ最終処分量が少ない経済性に優れた施設
- ・稼働に支障が生じた際に、可能な限り島内業者で対応ができる施設

(委員意見等)

○整備方針(案)について

- ・施設整備方針はこのままで良い
- ・修理やメンテナンスはすぐ対処するために、地元業者で可能な限り対応できるという点が必要であり、ほぼ内容どおりで良い。

○他自治体施設との比較検討について

- ・最終処分場が満杯になった際に、維持管理を少しでも軽減できるようにしないとまた負担がかかる。施設種類については慎重に検討しないといけない。
- ・収集と分別は経費がかかる。収集時点で分別がされることで経費削減につながる。
- ・焼却炉の稼働方法として、毎日稼働するのではなく、稼働する日を集約して、休ませる期間(例えば、1週間稼働、翌週休止というサイクル)をつくることで施設の延命化につながる。
- ・建物の耐用年数は15年。他自治体は、大規模改修を行い長寿命化を図っている。
- ・現在の建屋を活かして新しい炉の設置だけするのは可能か。可能だとしても作業員の効率が図られるのか、また、建屋の更新時期を考慮する必要がある。
- ・運転時間が一番気になり、短い方がいいと思うが、1時間当たりの処理量が多ければ多いほど必要な建築面積は広がってしまう。その条件をクリアできるのであれば一番短い8時間運転がいいのではないかと。
- ・2炉については、同時に稼働することで必要な能力を発揮しており、整備の際は2炉ともに止めなければならない。

②事業実施場所について

現施設敷地を視察

(委員意見等)

- ・焼却施設を決めるとき、最初に候補を決めてから検討を行うのではないか。
- ・候補地選定等に時間がかかるため、本町では現施設での建設を検討する。

2 その他

- ・視察は、8月28日(水)～8月30日(金)の日程で行う。種子島及び始良市の施設を視察する。
- ・次回の日程については、視察の時に決定